

ツルシギ

Tringa erythropus

シギ科・旅鳥



ツルシギ

名前の由来

黄赤い脚がととも長く、くちばしも長い鳥で、まるでツルのようなところ呼ばれた。「シギ」は「騒ぎ(さやぎ)」から来ているといい(新井白石、大言海)シギの羽音から考えられたのではないかという。漢字名：鶴鷗

特定種

該当なし

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)32cm。くちばしは細くて長く、黒くて基部は赤い。足も長く、暗赤色。夏羽では全体がすすけた黒色で目の縁は白く、体の上面には白い羽縁(羽毛の縁)と斑点がある。飛翔時は背の中央と腰が白く見える。冬羽では頭上は灰色で黒い縦斑があり、体の上

面も灰色で白い羽縁とその内側に黒線がある。体の下面は白く、首の横や脇などに灰褐色の斑紋がある。

類似種と見分け方：冬羽でアカアシシギと似るがツルシギの方がくちばしは長く、下のくちばしだけが赤い。ツルシギの白い眉斑(眉毛の様な斑点)は目の後ろまで明瞭。

生息環境・分布

海岸や湖沼沿いの砂泥地、水田、ため池などに現れる。十勝には3~5月、8~10月に旅鳥として飛来する。

分布：ユーラシア大陸の高緯度地方や北極圏に繁殖分布し、アフリカ大陸中部からインド、東南アジアにかけて越冬。日本には旅鳥として各地に現れ、8~10月と3~5月に見

られるが、飛来数は春の渡り期のほうがずっと多い。北海道では旅鳥。河口部や海岸近くの湖沼、まれに内陸の水域にも飛来する。十勝地方には、旅鳥として渡来。河口部や海岸近くの湖沼、まれに内陸の水域にも飛来する。

食性・他生物との関わり

干潟などの砂泥地に生息する水生昆虫の成虫・幼虫、甲殻類、軟体動物などを食べる。猛禽類などに捕食される。

興味深い話

- 足が長い為、他のシギ類よりは深い所で採餌する。
- 春には多く、秋には少ないという。

配慮事項

採餌環境として干潟などの砂泥地が必要。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				■				■				
ユーラシア高緯度(繁殖期)					■			■				
東南アジア他(越冬期)	■									■		

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
 「原色日本野鳥生態図鑑(水鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
 「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原樹林)
鳥類